

西郊支部として、新たに活動を始め2年目となりました。この支部においても、これまで人権・同和教育の原点として大切にしてきた「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう」という考えのもと、自分たちの教育のあり方を見つめ直し、差別の解消に向けて保護者や地域の人たちとともに作り上げてきた取り組みを継承しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大が心配される中、予定していた行事の開催について事務局会で何度も話し合いました。そして行事を中止するというのではなく新しい方向での意義ある行事の持ち方について考えました。

11月の予定であった人権フェスティバルは、一堂に会する開催を中止しましたが、各校の人権教育の取り組みをリーフレットで紹介しました。小学校においては、各学年の取り組みやいじめ防止標語の取り組み、視覚障がい者や老人ホームの方との出会い学習から学んだこと、人権劇を通して考え話し合ったこと、中学校においては、人権サークルの取り組みが紹介されました。これらを保護者に配付、また地域に回覧して、人権啓発を行いました。



12月に「人権教育実践交流会」を開催し、西郊中学校の取り組みが報告されました。事前にレポートを配付し、自分の考えをもって参加し、活発な意見交流ができました。昨年度は、全ての学校園が発表し、全員参加の研修会でしたが、今年度は発表を中学校1校だけとし、参加者も少人数にして行いました。そこで、他の4校の実践については人権クリエイターとともに各校で研修会を持ち、話し合われたことをそれぞれの報告者に伝えました。

今年度は、各校の人権課題を校区全体でまず教師が共有し、改めて西郊地域の人権課題について考えました。今後も私たちは、地域とともに、子どもたちの育ちをどのように支援できるのかを考え、人権感覚豊かな地域社会づくりを推進していきます。